



お母さんへ

私は今年、小学六年生になり、何とか日本語も問題なく使えるようになりました。

今から七年前にお母さんと二人で、私の小学校への入学準備の為に日本に来た時は、二人共何を見ても、聞いても意味が分からない状態で、まるで地球に降り立った宇宙人のようだったよね。

でもね、お母さん。お母さんは、仕事と私とペットの亀や金魚達に、お花のお世話に明け暮れて、時間がないのは分かるけど、まだ日本語を話すことが出来ないよね。そして、私が「何でお母さんは日本語を覚えたいの？」と聞くとき、いつも「私はあなたが中国語を忘れないようにするために、わざといつも中国語で話しをしてるのよ」と言っていて、正直なところ、少しはお母さんも日本語を覚えてほしいなあ、と私は思っているんだよ。

だけだね、お母さん。そういうお母さんがたどたどしい日本語と、身振り手振りで意思の疎通をしながら、毎日夜遅くまで仕事をしている姿を見ていると、私は自然と「ありがと」という思いになるんだよ。

だからね、お母さん。いつもなかなか言えないけど、今日はこの手紙で「感謝」じゃなくて、「ありがとう」と言うね。

そして、少しでも早く、私が書いたこの手紙をお母さんも読めるようになってほしいなあ、と思っています。



瑞錦より

